



青少年赤十字だより

令和7年4月10日発行 第70号

編集：群馬県青少年赤十字指導者協議会広報部（日本赤十字社群馬県支部内）

〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 TEL 027-254-3636 赤十字の活動を知りたい人は…日本赤十字社群馬県支部HP <http://www.jrc.or.jp/gunma/>



「気づき・考え・実行する」を合言葉に成長する場

～リーダーシップ・トレーニング・センター開催～

夏休み中に県内各地から青少年赤十字のメンバーが参加する行事として「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」があります。赤城山大沼のほとりにある赤城少年自然の家を会場として、昨年度の1泊2日からコロナ禍前と同様に2泊3日（高校は2泊4日）で開催し、合計89名のメンバーが参加しました。

この研修会では「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を共同生活の中で実践しながら、赤十字の精神や、ボランティア、リーダーシップ、救急法などを学びました。また、県内各地から参加するので、普段は知り合うことのない違う地域のメンバーとの交流を図ることができました。

太田市立駒形小学校

6年 山内 咲陽子

トレセンは、自分の成長が一番感じられる素晴らしい機会でした。今まで勇気を出せずに手を挙げることもない私が、自ら立ち上がり、代表になることができました。（V代表）また、今まで人の目を気にしてゴミ拾いやスリッパそろえなどをあまりしてこなかったのですが、トレセンでそんなことを気にせず、良いと思ったら実行することの大切さを学びました。



沼田市立沼田中学校

2年 志賀 結月

このトレセンでは指示がない生活だったけど、自分で考えて先見したり、掲示板や時計をよく確認したり、新しくできた友達と協力したりして、「3年間」を楽しく過ごすことができました。指示がないってとても不安だったけど、積極的に生活しようと決心してこのトレセンに来て、一番最初に挙手をできて良かったです。きんちょうしたけど、みんなが拍手をしてくれたのでやってよかったと思ったり、逆に他の人が頑張ってくれたときにはちゃんと感謝を伝えようとも思いました。私がこのトレセンで一番すごい!と思ったことが、1日を1年ということ。



1日で1年間を過ごしたくらいの経験を得ようという考えがすごいし、その考えのおかげで自分からたくさん発言したり、逆に他の人の意見をたくさん聞いたりできました。私はフェンシングをやっているけど、練習だるいなーと思うときもあります。でもこのトレセンを通して、どうせやるならたくさんの技にチャレンジして、だれよりも多くのことを学んだ練習にしたいなと思いました。この1日が1年という考え方は、これから一生忘れないと思います。赤十字のことは知っているつもりだったけど、初めて知ることが多くてびっくりしました。赤十字のマークは、十字と新月とクリスタルの3種類があり、十字はキリスト教をれんそうさせるから他のマークも考えたっていうのが、世界中の人達のことを理解していることが伝わってきて、いいなと思いました。群馬県の青少年赤十字の加盟率が95.6%で、みんな加盟してるんだと思ったけど、全国の加盟率が30%と聞いて、あれ?と思いました。赤十字の活動が、もっと広がってほしいです。自分は青少年赤十字に加盟しているけど、自分にできることがあまりわかっていませんでした。でも、海外との国際交流事業で海外についての理解を深めることも青少年赤十字の活動につながると知って、自分にできることもたくさんあるじゃん!と思いました。積極的に参加したいです。このトレセンで一番先見が大変でした。でも先見って大切だから、これからの生活でもして、先見のプロになろうと思います。沼田中1人で不安だったけど、本当に来て良かったです。3年間ありがとうございました。

太田市立太田高等学校

1年 須藤 那菜

このトレセンに参加した理由はただ友達に誘われたからだったけれど、今思うと、どんな理由であれ参加できて良かったと思いました。私がこのトレセンで最も印象に残っていることは「気づき・考え・実行する」です。小学校の頃から幾度となく言われた言葉ですが、この言葉の大切さと重さにトレセンでやっと気づくことができたと思っています。思い立ったとすぐに行動にうつせない私はこの4日間、気付いたら実行!という目標のもとすごしてきました。明日の朝そうじがあるから今日パツと確認しておこう。こういう明日の自分への気づきがい今までできていなかったと体感しました。明日の自分が少しでも楽に、不安が減るというのは学校生活だけでなく日常生活でも共通することだと思います。この夏休みは計画と実行のくり返しです。課題の予定をたてるのも探究学習を進めるのもすべてに必ず「計画」が伴うので、このトレセンで計画する力・実行・考察する力を磨けて本当に良かったと思っています。反省点としては体調管理!これも先見の一つになるかもしれないけれど、疲れているのであれば、明日起きる時間から逆算して寝る時間を十分に確保したり、水分などは家からもってきたりなど、できることがあったはずなのに、やらなかったことは反省です。この4日間、新しい友達をつくり、先輩、後輩関係なく話してすごせたことは夏の思い出です。スタッフの皆さん、先生方、そしてトレセンの皆、本当にありがとうございました!!



～みんなの仲間が各地でがんばっています～

小学校 青少年赤十字活動紹介

魅力あふれる若宮小を目指して

【前橋市立若宮小学校】……………

本校では1学期にJRC登録式を行い、縦割り班での集会や、児童が中心となって呼びかける募金活動、地域清掃活動などに取り組んでいます。11月の終わりに行った地域清掃では、学年ごとに学校の周りの公園を分担し、地域のみなさんと一緒に落ち葉やごみを片付けました。寒い中でしたが、地域のみなさんから「ありがとう。」「助かったよ。」などの労いの言葉をかけていただき、心が温まる時間となりました。今後も仲良く助け合い、魅力あふれる学校を目指していきたいです。



名和小学校のJRC活動

【伊勢崎市立名和小学校】……………

本校では、児童会が中心となり、JRC登録式、あいさつ運動、縦割り活動、赤い羽根共同募金等に全校で取り組んでいます。あいさつ運動では児童会本部役員だけでなく、6年生で募集したボランティアの人も参加し、朝から爽やかな挨拶を交わしてくれています。

また、縦割り活動では、6年生を中心に各班ごとに活動内容を話し合って決めています。どの活動も根底には「気づき 考え 実行する」という青少年赤十字の精神があります。



西小学校のJRC活動

【富岡市立西小学校】……………

本校では、児童会役員が中心となってJRC活動に取り組んでいます。

あいさつ運動を中心に、募金活動、人権目標の設定などを行いました。また、縦割り班全校レクリエーションを企画し、「猛獣狩り」や「リーダー探し」など低学年も一緒になって仲良く、楽しく遊ぶことで、異学年交流を充実させることができました。

また、あいさつ運動や募金活動では、児童会役員が中心になって取り組んだことで、全校での積極的な活動につながり、思いやりの心を育てることができました。



中野小学校のJRC活動

【邑楽町立中野小学校】……………

本校では、JRC委員が中心となって、青少年赤十字の活動に取り組んでいます。JRC登録式では、青少年赤十字の成り立ちを説明し、具体的にはどんな行動をすればよいか考え、全校児童が「気づき、考え、実行する」という行動目標を意識できるようにしています。また常時活動として、ペットボトルキャップの回収を行っています。回収を呼びかける際に、キャップを集めると、なぜ世界の子どもたちへのワクチンになるのか、JRC委員が劇を交えながら全校に説明しました。



世界に広げよう輝く笑顔

【藤岡市立平井小学校】……………

本校のスローガンは「輝く笑顔 平井小」です。そして、少しでも多くの人々に笑顔を届けることを目指し、JRC委員が中心となって奉仕活動を進めています。1円玉募金やリサイクル募金など工夫を凝らし、学校はもちろん保護者や地域の人にも呼びかけられています。集められた奉仕の心は、青少年赤十字を通して、バヌアツや能登などに届けられました。子どもたちの「気づき・考え・実行する」姿があちこちに見られ、笑顔あふれる学校です。



みんなの笑顔のために

【館林市立第二小学校】……………

本校では、JRC委員会を中心に全校で青少年赤十字活動に取り組んでいます。登録式の際には、JRCの成り立ちや具体的な活動方針等、JRC委員が自作動画を使って全校に説明し周知しました。また、委員会の常時活動では、古紙回収や洗剤補充をして過ごしやすい環境を整えたり、自校の課題やそれに向けた解決策を話し合ったりしています。そして、今年度は初めての取組として、ペットボトルキャップ回収を行いました。JRC委員を中心に呼びかけ、全校で約4万個のキャップが集まりました。並行して赤い羽根募金等にも取り組み、例年よりも多くの募金を集めることができました。JRC委員が働きかけることで、全校児童がより積極的に活動に参加してくれました。これらの活動を通して、全校児童が、地域社会のために自分ができることを行おうとする意識が高まりつつあります。これからもみんなの笑顔のために継続して活動していきたいです。



高等学校・特別支援学校 青少年赤十字活動紹介

渋川女子高校JRC部の活動

【群馬県立渋川女子高等学校】……………

本校のJRC部は、3年生10名と1年生4名の計14名で活動しています。普段の活動は、ペットボトルキャップやコンタクトレンズの空ケースの回収、募金活動や献血PRポスターの作成などを行っています。また、部員が主体的に活動内容を企画し、校内清掃や学校周辺のゴミ拾いなどを行っています。昨年度の文化祭ではバザーを開催し、売上金は日本赤十字社に寄付をしました。今後も地域や社会に貢献できるよう、自ら課題を見つけて、主体的に活動していきたいと思っています。



活動の喜び

【高崎健康福祉大学高崎高等学校】……………

今年度からJRC部とインターアクト部が合同で活動することになり、夏休みには研修会を行いました。それぞれの部の特徴や活動内容をお互いに確認し、より一層有意義な活動を行うことができました。部員も43名になり、各種の救急法講習会に参加したり、「地域清掃活動」や「花いっぱい活動」、「歳末助け合い募金」、「校内献血のお手伝い」等を協力して行いました。今後は、フードドライブや養護施設訪問等を予定しています。



太田工業高校のあいさつ運動

【群馬県立太田工業高等学校】……………

本校にはJRCの部活や委員会がなく、ボランティア活動や募金活動は生活習慣委員会や生徒会が担当しています。活動の中心は「あいさつ運動」で、生活習慣委員会を中心に月3回あいさつ運動が行われています。この日は2年生の生活習慣委員会と生徒会本部役員が正門に立ち、徒歩や自転車で登校してくる生徒たちに向かって大きな声であいさつをしました。あいさつによって学校全体が明るくなり、また人間関係も円滑になることを目指して行っています。



一人一人ができること

【群馬県立玉村高等学校】……………

「誠実」「勇氣」「奉仕」という校訓のもと、生徒会本部役員が中心となってJRC活動を行っています。今年度は「朝の挨拶運動」「緊急連絡先カードの作成」「献血」「伊勢崎・佐波地区いじめ防止フォーラム幹事」を中心とした活動に取り組みました。特に献血では、多くの生徒の協力のもと無事に行うことができました。様々な活動を通して、人と人が支え合う大切さを実感しました。今後も「誠実」「勇氣」「奉仕」の心で、一人一人ができることを考えて励んでいきたいと思っています。



JRC活動を通じて

【前橋市立前橋高等学校】……………

本校は、2年生5名、1年生1名の計6名で活動を行っています。主な活動は、ペットボトルキャップ回収、募金活動、コロナ禍以降は校内に設置されたアルコールや石鹸の補充等、衛生活動にも力を入れています。個人では、子ども食堂や図書館ボランティアに参加する部員もあり、体験を共有することで各自の意識の向上を感じました。ボランティアは個人でできることですが、部活として集団で活動する時間を大切に、卒業後もJRCの「気づき、考え、実行する」の理念を心に、社会で活躍できるように活動を目指していきたいと思っています。



寄せ植え交流

【群馬大学共同教育学部附属特別支援学校】……………

本校中学部では、作業学習において、農芸芸班で作った寄せ植えを地域に届ける活動をしています。今年度は、前橋中央通り商店街や近隣のスーパーなどにパンジーの寄せ植えを届けました。商店街に寄せ植えを届けた際には、「私たちが作った寄せ植えです。よろしくお願いします。」「ありがとうございます。大事にするね。」などのやり取りを通して地域の方と交流することができました。寄せ植えは中央広場に飾っていただきました。今後も地域との交流を大切に活動に取り組んでいきます。



中学校 青少年赤十字活動紹介

自ら考え、動くボランティア活動

【太田市立木崎中学校】……………

他者の喜びを自分の喜びにする体験を味わおうと、今年度初めて老人介護施設におけるボランティア活動を実施しました。これは、生徒たち自ら何ができるか考え、企画・運営したものです。当日の活動では、お年寄りの皆さんとゲームを楽しむなど、短時間ながらも充実した時間を過ごすことができました。お年寄りの皆さんの明るい笑顔とともに、生徒たちの表情が生き生きしていたのが印象的でした。今後も誰かの笑顔のために、様々な活動を行っていききたいと考えています。



ハイタッチであふれる笑顔！

【桐生市立川内中学校】……………

本校では、定期的に生徒会を中心に挨拶運動を行っています。今年度は、「他学年との交流」を図るための第一歩として、ハイタッチを交えて挨拶をする、「ハイタッチ挨拶運動」を実施しました。また、各クラスにアンケートを採り、希望者参加制度にしました。その結果、たくさんの生徒が生徒会本部役員と共に挨拶運動に参加しました。学年の壁を越えた、笑顔あふれる交流となりました。このような活動を通して、温かな心と活気のある学校を目指していきます。



JRC活動につながる日常的な生徒会活動

【高崎市立南八幡中学校】……………

本校では、生徒会本部役員が各自のテーマに沿った企画を立案し活動しています。主な活動例は、ボランティアを募り休み時間を使つての校内美化活動、ベルマーク運動、ペットボトルキャップ回収、募金活動、あいさつ運動、SDGs活動啓発動画制作等です。これらの活動はJRCの態度目標「気づき・考え・実行する」や実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」につながっています。こうしたJRC活動につながる日常的な生徒会活動を今後も継続して本校の最上位目標である「生徒の自律」を目指していききたいと思います。



小中連携したJRC活動

【沼田市立多那中学校】……………

本校ではJRC活動の一環として「あいさつ運動」や「なかよし集会」を小中合同で行っています。あいさつ運動では、各自が作成した「オリジナル缶バッジ」を着用し、良いあいさつができると観点毎に色分けされたシールがもらえ、それを缶バッジに貼っていく活動を行いました。また、なかよし集会では7月に「しっぽ取り」、12月に「こおり鬼」を行いました。生徒はこれらの活動の中で、あいさつが活発に交わされることの良さや全員が楽しむために何が必要かを考え行動することができました。



地域の方と一緒に

【高山村立高山中学校】……………

本校では、学校運営協議会と連携し、令和5年7月より生徒たちが地域のボランティアに自主的に参加しています。

ボランティアの内容は、村関係主催のお祭り、グランドゴルフ大会、かるた大会、フリーマーケット等の準備運営の手伝い、県立施設の清掃、民間団体のイベントの手伝い等です。昨年度、参加した生徒は33人、延べ人数では55人になります。地域からは感謝のお言葉をいただき、生徒の励みになっています。中学生を引き受けてくれる地域の皆様に大変感謝しています。今後も、地域と連携して生徒のボランティアに参加する心を育成していききたいと考えています。



笑顔いっぱい为学校 ~地域との連携~

【みどり市立あずま小中学校】……………

本校では「認め、励まし、伸ばす」~笑顔いっぱいの学校~を目指し、超小規模校のよさを強みに様々な活動に取り組んでいます。児童生徒会本部役員が中心となり「自分たちの学校は自分たちで作る」ことを心がけ、話し合いを通して課題解決をしています。また、校内ボッチャ大会、運動会、地域学習、資源回収、地域貢献活動の神戸駅舎清掃など、地域の皆さんと触れ合う機会を設定しています。今後も自分のため、人のために働くことの楽しさや生きがいを学んでいきたいと思っています。



マレーシア派遣報告

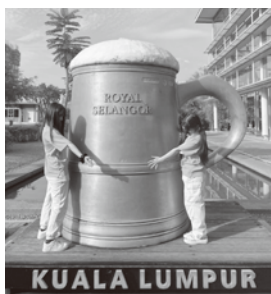
日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字国際交流派遣事業

日本赤十字社北関東三県支部（群馬、茨城、栃木）では、7月21日～7月26日の6日間、青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の具体的な活動の機会として、メンバー及び指導者をマレーシア派遣しました。（本県からは高校生5名、指導者1名を派遣）

共愛学園高等学校 2年 佐藤希乃花

私は「将来の自分の可能性を広げるために色々なことに全力で挑戦する」という目標を掲げ、この研修に参加しました。応募期間中、作文の構成や面接の答え方、マレーシアの事前調べなど苦手なことに向き合い、楽しさを見出す力を身につけました。事前研修会では他県のメンバーと初めて会い、JRCの多様性を感じました。

そして、マレーシアでは赤新月の方や現地の生徒、ガイドさんとの交流を通じ言語の壁を乗り越える大変さと感動を味わいました。また、国際理解・親善の大切さを学び、多民族・多宗教の共存や文化体験が印象に残りました。この研修を最高のものにしてくれた派遣メンバーに感謝し、また会える日を楽しみにしています。



高崎健康福祉大学高崎高等学校 2年 大山 桜来

今回の北関東三県支部国際交流事業は、私の人生を大きく変えるきっかけとなりました。この事業に参加する前に進路が決まらず模索していましたが、マレーシア派遣事業の話を聞き、即座に応募を決意しました。特に印象に残っているのは、マレーシアの人々の心の温かさです。初めて赤新月社加盟校を訪問した際、生徒たちの笑顔やリアクションのおかげで発表が成功し、温かい支援の力を実感しました。また、派遣メンバーと共に発表の練習や食文化の体験をし、涙ながらに別れを惜しんだことなど、すべての経験が宝物です。この事業は私の将来を良い方向へ導いてくれました。貴重な機会をくださった日本赤十字社の皆様に心から感謝しています。



群馬県立中央中等教育学校 1年（高校） 中島 美咲

今回のマレーシア研修では、たくさんの貴重な経験を得ることができました。特に印象的だったのは、マレーシア赤新月社国際赤十字・国際赤新月社連盟(IFRC)の訪問で見た、異なる人権や文化の人々が「人を助けたい」という想いで一つの方向を向き、共に働いていた姿です。その姿に感銘を受けると同時に憧れを抱きました。また、現地の学校で同年代の生徒たちと文化を超えた交流ができ、英語やマレー語での会話が大きな自信につながりました。特に民族衣装で踊る生徒たちの姿や、アイシャという友だちと過ごした時間が心に残っています。異文化交流には相手文化へのリスペクトが重要であると実感しました。

最後に、この研修に関わってくれたすべての方々に深く感謝しています。本当にありがとうございました。



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 1年（高校） 石原 詩音

「人と関わるうえで大切なことは何か」という問いの答えを探するため、今回の派遣事業に参加しました。特に印象的だったのは学校訪問です。民族衣装で迎えてくれた生徒たちが踊りや音楽を披露してくれた姿に感動しました。また、発表活動では、相手の大きな反応に助けられ、緊張せず楽しく進行できたことが貴重な経験となりました。さらに、交流活動では言語の壁に苦労しましたが、マレー語や日本語での心温まるやり取りを通じて、相手を思いやることの大切さを実感しました。

自分が楽しむことと相手を考えることが交流を豊かにする鍵だと気づき、この派遣事業がなければ得られなかった学びに心から感謝しています。



高崎商科大学附属高等学校 2年 池澤 星夏

今回のマレーシア派遣事業では、多くの貴重な経験をさせていただきました。ただの観光では学べないことがあり、本当に参加してよかったです。特に印象的だったのは、マレーシアと日本の赤十字の活動の違いです。根本の思いは同じですが、具体的な活動内容が異なり、マレーシアでは赤十字の職員が平時から身体を鍛え、本格的な訓練を行って災害に備えていました。また、マレーシアの食文化にも驚きました。独特な香辛料の香りや見た目には抵抗がありましたが、挑戦して食べてみると新しい味を楽しむことができました。さらに、現地の方々の明るさや優しさに触れ、言葉を越えた交流ができたことが嬉しかったです。

この事業を通じて得た学びを伝え、将来の夢を実現する一歩としたいと思います。関係者の皆様に心から感謝しています。



日本赤十字社群馬県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが赤十字や青少年赤十字に関心をもち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してください。



入賞した作品はこちらで確認可能です。

青少年赤十字「作文」コンクール入賞者

小学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリーデュナン賞	明和町立明和東小学校	柴崎 一喜	6	ボランティアゲーム
人道賞	館林市立第一小学校	栗原 愛来	5	私にもできること
	婦恋村立東部小学校	干川 七穂	6	みんなが楽しい時間を過ごせるように
JRC賞	太田市立北の杜学園	石関 郁翔	4	おばあちゃんの実顔
	館林市立第一小学校	植田 純翔	6	わたしができるボランティア活動
	明和町立明和東小学校	岡田 宗大	2	ほくと大ばあ

中学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリーデュナン賞	館林市立第四中学校	葛川 大樹	1	わたしができるボランティア活動
人道賞	館林市立第四中学校	武藤 晃希	1	大切な友達
	館林市立第四中学校	青木 咲良	2	私が今思うこと
JRC賞	太田市立北の杜学園	今井 凜音	3	誰かの支えになる活動
	館林市立第四中学校	諏訪美優菜	2	身近な所から始めるボランティア
	館林市立第四中学校	飯塚 琴美	3	ボランティアへの最初の一歩

高校生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリーデュナン賞	東京農業大学第二高等学校	泉 絵恋	2	私の当たり前を届けるために
人道賞	東京農業大学第二高等学校	勸使河原夏	1	幸せであふれる世界へ
	東京農業大学第二高等学校	中嶋咲太郎	2	手助けが連鎖する優しい社会を目指して
JRC賞	東京農業大学第二高等学校	富沢 優羽	1	私にできること
	東京農業大学第二高等学校	林 屈咲	1	「生きる」とは
	東京農業大学第二高等学校	秋山 結衣	1	私達にできる身近なこと

学校奨励賞 受賞校

(※学校奨励賞は応募総数、応募率等に基づいて決定しております。)

- 小 学 校…高崎市立葉附小学校、館林市立第二小学校、館林市立第九小学校、みどり市立笠懸東小学校、玉村町立上陽小学校、明和町立明和東小学校
- 中 学 校…前橋市立第六中学校、伊勢崎市立あすま中学校、太田市立北の杜学園、館林市立第四中学校
- 高等学校…群馬県立高崎北高等学校、群馬県立伊勢崎工業高等学校、東京農業大学第二高等学校

青少年赤十字「ポスター」コンクール入賞者

アンリー・デュナン賞 (最優秀賞)

どんな時も
伊勢崎市立あすま中学校
1年生 狩原 大陽

つなぐ
いのち
玉村町立上陽小学校
2年生 石井菜乃香

あなただけで
わたしにもできる
太田市立太田高等学校
2年生 杉浦 心花

人道賞 (優秀賞)

1秒でも
早く
ひんぱん
藤岡市立平井小学校
6年生 大岡殊剛愛

救う助け合い
館林市立第九小学校
6年生 荒井 文瑠

いのち たすけなぐ
伊勢崎市立殖通中学校
1年生 田中 夢葉

意識偏差値
群馬県立高崎北高等学校
1年生 埜田ことね

献血は
命を繋ぐ
東京農業大学第二高等学校
2年生 岡本 真奈

一つの支援で誰かが生きる
太田市立休泊中学校
3年生 鈴木 瑛司

JRC賞 (佳作)

笑顔を
救える命
館林市立第一小学校
3年生 長谷川ほのか

救える命
広がる笑顔
明和町立明和東小学校
5年生 天野 花梨

献血で
救える命
明和町立明和東小学校
5年生 奈良 優那

病士の
妻らない
伊勢崎市立あすま中学校
1年生 齊藤 華音

あなたの献血で
命が生まれる
伊勢崎市立あすま中学校
1年生 鈴木 優結

つなげよう
命の連鎖
前橋市立木瀬中学校
2年生 小山 結衣

人を救う
前橋市立第六中学校
1年生 須藤 映子

命を救おう
献血で
東京農業大学第二高等学校
1年生 西川 莉央

大切な命
繋ぎたい
東京農業大学第二高等学校
1年生 吉田 百希

君の想いが
誰かを救う
東京農業大学第二高等学校
1年生 山口 葉奈